

技術開発に注力

日本住宅基礎鉄筋工業会は、住宅用基礎溶接鉄筋の「品質保証、標準化、規格化」を目指す組織だ。現在、会員企業は、どのような問題点を抱えているのだろうか。

同工業会がまとめた会員の意見をみると、「拾い出し等のシステム化が遅れており効率が悪い」が多い。また、「現行の製造工法・技術では製造コストに満足できない」、「配送コストが高く収益が上がりにくい」、「より一層、高品質な鉄筋が求められている」、「製造技術教育システムが整っていない」、「流通(付属品含む)に関する情報が少ない」などがある。

また、同工業会への希望については、「技術・基礎一般の技術習得機会

日本住宅基礎鉄筋工業会

飛躍する地域ビルダー

ハウジング・アナリスト 松下寛光-48

の提供」、「新工法・新技術による品質向上機会

「提供」、「コスト削減

「提供」など、新しい機会

「提供」など、新しい機会

「提供」など、新しい機会

基礎仕様標準化へ

システム供給確立に向け

「提供」など、新しい機会

「提供」など、新しい機会

「提供」など、新しい機会

「提供」など、新しい機会

「提供」など、新しい機会



基礎は「縁の下の力持ち」注目される存在となるか

から、やらなければならぬことがたくさんあり、会員からの期待も、大きいものがあります。

また、同工業会への希望については、「技術・基礎一般の技術習得機会

「提供」など、新しい機会